

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191500046		
法人名	株式会社 やさか		
事業所名	グループホーム あんき		
所在地	岐阜県中津川市坂下931-1		
自己評価作成日	平成29年1月4日	評価結果市町村受理日	平成29年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JizyosyoCd=2191500046-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成29年1月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との方々と連携を取りながら「その人らしい暮らしをその人が主役で作れるケア」を理念に、職員の業務上の役割をできる限り決めず、その日のその人の要望に可能な限り柔軟に対応できるように取り組んでいます。地域密着サービスという特徴もあるため、地域との交流やその他行事などに参加できるようにしています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、「その人らしい暮らしをその人が主役で作れるケア」を理念とし、利用者が、住み慣れた地域で慣れ親しんだ人たちと、笑顔で安心した生活を送れるよう取り組んでいる。地元高校生の介護実習を受け入れ、卒業生が就職するなど、地元の雇用につながっている。また、地域住民の福祉相談を受け、助言をしている。代表は、様々なエコ対策への取り組みを行い、地域に発信することで、多くの理解者が増えている。夏のイベント開催の際には、「マイ皿」「マイ箸」などの利用も定着し、地域住民と共に楽しく交流を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送り、職員会議にて、理念に沿った内容の話し合いを行い、共有できるようにしている。	事業所は「その人らしい暮らしを、その人が主役で作れるケア」を理念に掲げている。日々の申し送りと職員会議でケアを振り返り、利用者中心の支援が実践できているかなど、お互いの気づきを話し合い、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	野菜や旬のとれた物を持って来て頂いたり、行事参加、ボランティアの受け入れなどをしながら、地域の一員として交流できるようにしている。	自治会の回覧版で、地域の行事を把握し、利用者と共に参加したり、事業所の夏祭りには、子ども会や近隣の親子が訪れている。若者が少ない地域であるため、若い職員が、地域の草刈りや清掃活動に積極的に出かけ、住民と交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事を通して、普段どういった関わりをしているのかを知って頂くようにしている。個別相談、運推などを通して相談事などを受け入れ、地域の方にも理解を深めて頂けるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現在の介護現場の状態、取り組みなどを話をしながら、意見などを出して頂き、活かせるようにしている。	隔月に開催し、自治会、老人クラブ、民生委員、行政、地域介護推進者などの代表が参加し、事業所の取り組みや行事予定などで、意見交換をしている。会議参加の地域介護推進委員が、地域の高齢者の実態を把握しており、事業所と地域の橋渡しの役割を担い、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2か月に1度、グループホーム部会を開くにあたり、介護保険室の方にも参加して頂き、意見交換をしている。何か相談事があれば、その都度連絡、報告している。	市内の事業所が、連携して立ち上げたグループホーム部会への支援と共に、介護の動向、法改正などについて、行政から指導や助言を得ている。運営推進会議では、参加者の質問や意見に対して、回答してもらったり、日常的に、連絡を密に行い、困難事例等の相談もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年度は身体拘束の研修は行っていないが、日々身体拘束を行ってはいけない事、その都度身体拘束にならないよう話す場面を作っている。	新人教育の中で、身体拘束についての学習を行っている。日常のケアを通じて、拘束につながらないように、その都度、職員間で話し合いを行っている。「利用者が主役」の理念に基づき、利用者の自由な行動を見守りながら、ゆとりある支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について学ぶ機会を持っていないが、入所者の身体観察なども含め、注意を払い、あざ等の発見時には、ご家族に報告。ホーム内でもなぜ出来てしまったのかを検討するようにし、同じことが起こらないよう努めている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は、話し合いの場、学ぶ機会を持ち、それを活用できるような支援は今の所出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時・解約時にはご家族との話す場面に時間を掛け、納得して頂けるように説明を行っている。疑問点、相談事なども、その際に伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者の要望などには、その日にできる限り対応できるようにしている。ご家族の要望などは、日々の申し送り、職員会議で話し、反映できるようにしている。	写真付きで、個別に利用者の様子を記録した「あんき便り」を家族に送付し、報告をしている。また、便りの中に「家族へ連絡及び依頼」の枠を設けている。家族の訪問時には、出来る限り時間を作って意見交換をしている。医療費控除についての質問等があり、迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職員会議にて話をする場面を作っている。また、日々の中で意見があれば聞くようにしている。	月1回の職員会議には、代表者も参加している。職員一人ひとりが考えるケアでの取り組みを報告したり、利用者主体の支援について意見交換をしている。職員からの意見や提案を運営に反映させている。	職員一人ひとりの「考えるケア」の実践にあたり、各種の補助事業等も活用し、認知症に関する知識やケアを深めて、さらなるサービスの向上につなげられるよう期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の休み、体調不良時の交代勤務、研修への参加、資格取得への支援など、職員が働きやすい環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら行っている。外部研修、内部研修により、介護方法の見直しをしている。その都度、困ったことなども話を聞いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所との研修や意見交換会などの取り組みも行っており、また、他業種との研修などにも参加し、質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時は、ご本人にとって安心できる環境作りを中心に支援を行っている。その関わりの中で、不安、要望を聞き取れるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に不安や困っていること、要望を伺いながら、どういった支援が可能かも含めて話す時間を取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用開始前には十分な時間を掛け、その時に必要な支援をできる様心掛けている。毎日の生活の中で決め付けではなく、出来ることを見つけるようにもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族と位置づけ、お互いに支え合えるような生活をするように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の力はとても大切で、ご家族の協力なしでご本人を支えることは難しいことをお伝えし、面会、外出、受診など可能な限り関わって頂けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り、自宅や馴染の場所、人の面会など出来るようにしている。	訪問者は多く、職員は気軽に会話ができるよう気配りをしている。隣接の小規模多機能型の利用者と交流をしたり、合同でイベントを開催するなど、馴染みの関係継続を支援している。職員との買い物や、家族と一緒に馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てるように橋渡しをしたり、間に入って、お互いが一緒に生活している共同体として支え合って生活出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご本人、ご家族の必要に応じて、相談や支援を出来るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや希望に沿う事が出来る様、日々の会話や言動に注意している。思いを伝える事が難しい方には、以前の生活歴などに留意して、ご本人に合わせた支援が出来るよう努めている。	職員は、利用者に寄り添いながら話を聞き、表情や仕草から思いや意向を把握するよう努め、希望の実現に向けて取り組んでいる。困難な場合は、家族からの情報や、契約時の資料を参考にして、できる限り本人の思いを把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前、開始時にご家族から聞き取りを行い、把握できるように努めている。また、利用開始後もご本人やご家族との会話の中から情報を得られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、日々の申し送りなどで状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度の職員会議にて話し合いを持ち、ご家族には面会時、ご本人には日々の会話などから状態把握をし、それらを反映できるように介護計画書作成をしている。	介護計画は、担当職員を中心に、介護記録や他の職員の気づき、医療関係者の意見、家族の希望などを組み入れて作成している。また、利用者の状態に応じて全体で話し合い、本人のより良い暮らしにつながるよう見直しを行い、計画に反映させている。	介護計画作成のサービス担当者会議には、できる限り家族を交えて話が出来るよう、日程の調整を工夫して、会議開催されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には些細なことも記録するよう心掛け、職員間で共有しながら、職員会議でも話している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限りその日の要望などに対応できるようにしている。柔軟に対応できるような体制をとるようにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人の生活歴などを把握するように努め、ご本人が希望される事、生活を楽しめるような支援が出来るようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には、今まで受診していたかかりつけ医にかかって頂くようにしています。かかりつけ医には不定期ではあるが、ご本人の血圧一覧表、普段の状態が解るようなものを提出し、適切な医療を受けられるようにしている。	契約時に事業所の方針を説明し、理解を得ている。個々のかかりつけ医を継続し、受診は原則家族が対応を行い、緊急時は事業所が支援をしている。利用者の健康状態を把握し、協力医と連携して医療体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師には、気になることなど相談をし、必要な助言を受けている。一人ひとりの状態により、適切な受診など受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、ご本人の状態など情報提供を行います。入院中も訪問し、様子などを把握するようにしている。退院時には退院調整室と連絡をとり、ご本人の状態確認も含め、訪問しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族の意向確認を行い、ここで出来る事・出来ない事の話をしています。重度化・終末期については、徐々に話し合う場面を持ち、必要に応じて、その都度ご家族と話し合いの場を持つようにしています。	重度化や終末期の方針を説明し、同意を得ている。利用者の状態の変化を早い段階で把握し、関係者と家族が話し合いを重ねている。終末期は、状態に応じて主治医と話し合い、自然な看取りの体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員による応急手当の研修などを行っているが、全ての職員が出来ているわけではない。今後も継続的に訓練を行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っており、近隣住民の方にも参加して頂き、協力体制を築いている。	年2回夜間想定を含めて、消防署指導の下、火災訓練を実施している。地域の防災訓練にも参加し、協力体制を築いている。訓練後には、運営推進会議で報告を行なっている。地震、水害についても、地域と話し合い、備蓄品も適切に管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの声掛けへの配慮、特に排泄、入浴などは、他の方になるべく分からないように支援している。	浴室やトイレは、プライバシーを守ることができる造りになっており、さりげない声かけと支援に努めている。また、ケアや利用者との会話の際は、利用者が安心して過ごせるよう、常に穏やかに対応するよう努め、大声や余裕のない動きをしないよう、職員間で注意喚起している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でご本人の想いを伺いながら、ご本人の希望される事を支援できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力業務の決まりを少なくし、その日のその人の要望やペースに合わせた支援が出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的にはご自身で選んで着て頂くようにし、その他の希望があれば支援するようにしています。ご自身で出来ない方には、ご本人の希望に添えるような支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を摂り、食事の準備、片付けなど出来ることを一緒に行って頂くようにしている。	食事作りは、利用者も、買い物や下ごしらえなどに関わり、職員と共に準備を行っている。また、職員と共に同じテーブルで会話をしながら、楽しい食事時間を過ごしている。職員は、利用者からの保存食づくりの経験談も参考にし、献立に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の状態も確認しながら、水分補給の時間を作ったり、食事量も考慮して行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助のいる方に毎食後は出来ていないが、寝る前に必ず義歯掃除、洗浄剤使用、歯磨きなどを行うように支援している。その他は必要に応じて行うようにもしている。ご自分で出来る方にはお部屋で行って頂いている。		

岐阜県 グループホームあんき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	毎日の周期表を使用しながら、一人一人のパターンに応じてトイレ誘導、声掛けなど行っている。	排泄チェック表で個々の排泄リズムを把握し、声かけと誘導で排泄の自立支援に取り組んでいる。昼夜共、同じように支援を行ない、利用者は、トイレでの排泄が習慣になっている。夜間のみ、安全面に配慮してポータブルトイレの利用者もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日朝のおやつ時にヨーグルトを提供している。水分補給や散歩などの運動を取り入れるようにもしています。(ヨーグルトが苦手な方には提供はしていません。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、ご本人の希望に合わせた入浴が出来るようにしている。声を掛けても気がすすまない方には、時間を空けて声を掛けたり、別日にすることも行っている。無理強いはいないようにしています。	檜の浴槽は、木のぬくもりがあり利用者に好評である。入浴は毎日でも可能な体制であるが、利用者の体力に負担のない範囲で入浴支援をしている。入浴介助を行なう際は、職員と利用者とのコミュニケーションの場でもあり、楽しい入浴時間となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣に合わせられるようにしている。その日によって、休む時間も配慮出来るように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用までは理解できていない部分もあるが、その人が飲んでる薬については理解をするように努めています。症状についても毎日のバイタルチェックを行い、状態の変化など把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った一日を過ごせるようにしている。毎日の役割や楽しみ事も出来るように支援し、散歩・ドライブ・喫茶・外食などにも行けるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その人がしたいと思ったときになるべくできる様支援している。喫茶・ドライブ・外食などにも出かけるようにしています。ご家族の協力が出来る方には、外出、外泊などお願いしています。	天気の良い日は、近隣の散歩や、ウッドデッキで日光浴をしている。希望者で喫茶店や買い物、ドライブに出かけている。家族の協力で外出する利用者も多くある。年間行事では、そばの花、桜、紅葉などの見学に出かけ楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、ご自身でお金を持っている方はいますが、基本的にはこちらで立て替えで使用しています。払えるものは払って頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は掛けたいときにかけて頂けるようにしている。手紙のやり取りは支援していません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は出来る限り分かりやすく、過ごしやすい場所となるようにしている。季節感を出すようにはしているが、花などは持って行ってしまったり、ちぎってしまう方もいるため、飾れていない。冬場の湿度調整が難しい状態です。	共有の空間は広く、天井が高く開放的である。椅子で利用できるコタツを備え、ゆったりしたソファも配置し、思い思いの場でくつろぐことが出来る。利用者は共用の間で過ごす時間が多く、皆で会話やトランプを楽しんでいる。利用者のふるさとの写真が数多く掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご自身の座りたい場所に座ってもらってよいのですが、ソファや食堂の席には固定化してきている。共用空間では一人になれる場所はなく、お部屋で過ごして頂く事もあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には、慣れ親しんだもの、写真、飾りなどを持って来て頂き、自分の安心できる場所となるようにしている。	クローゼットと洗面台が備えられ、窓越しに四季の移り変わりなどを眺めることができる。表札にも工夫があり、家族の写真や手作りの作品等を飾って、本人が居心地良く暮らせる居室作りを行なっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすくなるように工夫はしています。その都度、改善を出来るようにもしています。柔軟に対応できるようにしています。		